



不動点は何か

平成26年度も、もう3月、終わりに近づくと共に、新年度の始まりが近づいてきます。3月19日に卒業する6年生も4月から中学生、高3の時には東京オリンピックが開かれます。新年度に入学する1年生は6年生の時に東京オリンピックです。オリンピックまでに日本の国も大きく変わっていくと思いますが、自分たちの身近なところも大きく変わっていきます。年表でまとめてみると下のようになります。

H26年度(2014)小6

本年度

H27年度(2015)中1 新1年生
4月から新年度

H28年度(2016)中2 2年

H29年度(2017)中3 3年

H30年度(2018)高1 4年

英語活動から教科の英語へ
道徳から特別の教科道徳へ

H31年度(2019)高2 5年

H32年度(2020)高3 6年

東京オリンピック開催
新しい中学校の開校(予定)
新しい大学入試制度の始まり

英語活動の教科化については学校通信No.78でお伝えしたように、小学校では、読み書きを含めた初歩的な英語の運用能力を身に付け、身近で簡単な事について互いの考えや気持ちが伝え会えるようにすることが目標になります。6年生は高1になっているのですが、高校では、幅広い話題について発表・討論・交渉などを英語で行う事ができることが目標です。

道徳も学習指導要領に示された内容を体系的に学ぶため、教科として位置づけられることとなります。

6年生が高3の時には、現在の大学入試センター試験が大学入学希望者学力評価テスト(到達度テスト)に変わり、基礎テスト、発展テストを複数回受験するような仕組みに変わっていきます。センター試験のような一発勝負ではなく複数回のテストによって、知識だけでなく思考力・判断力を問う形に大学入試も変わっていきます。

H32年には2つの中学校を統合して新しい中学校が開校予定です。(前後することがあるかも知れませんが)これから新しい中学校の開校にむけた準備が始まっていきます。

オリンピックに出場するこどもたちも出てくるかも知れません。

【変わって良いものと変わってはいけないもの】

制度や仕組みは、よりよいものにするために変えていけば良いものだと思います。では、変わってはいけないものは何でしょうか？わたしたちは、変わってはいけないものを不動の点として制度や仕組みを使いこなしていかなければなりません。変革の時代には不動の点は何なのか、意見を交換しあって明らかにすることが必要になってきます。

羽合小学校 寺谷英則